

今月から新連載「清田区誕生10周年を迎えて～町内会連合会会長に聞く～」を始めます。この連載は清田区誕生10周年を迎えるに当たり、区役所とともに区のまちづくり活動を支えてきた町内会連合会の会長に、清田区の10年間、またはこれからの清田区について語っていただくものです。第1回は北野地区町内会連合会 濱田（はまだ）会長のお話です。



北野地区町内会連合会  
会長 濱田 英彦

「清田区誕生10周年を迎えて」

清田区誕生10周年、心よりお祝い申し上げます。十年ひと昔とは言いながらも、あつという間の十年でした。札幌で一番人口の少ない区ではあります。恵まれた自然に囲まれた閑静な住宅地を目指してのまちづくりが着々と進んだ十年ととらえることができ、良い十年だったとの感にふけております。

十年前、豊平区からの分区分により清田区が誕生いたしました。平成九年十一月四日のことでした。豊平区北野時代からの沿革については、諸先輩がいろいろな場で語られていますのでここでは省いて、私は北野の現状と将来について町内会連合会（※以下「町連」という）の立場から、目を向けてみたいと思います。（一）まず弱い立場の人たちの視線でことを考え、仕事を進めていくやり方が徹底していま

す。北野に住んでまっさきに感じるのは福祉に対する取り組みが非常に活発なことですが、「民」独自の工夫が数多く展開されています。活動の中心は、町連の福祉を担当する「福祉のまち推進センター」で各町内会、自治会に組織されている福祉推進委員会を実行機関として、高齢者に対しては独居老人の見回り、中学生を中心としたボランティアによる除雪援助、お弁当の宅配事業、福祉まつり、介護予防の講習会はじめ担当者の研修会、各町内会ごとそれぞれにの会館で実施している「介護事業「きたのくらぶ」の展開など多彩です。

もう一つの柱である子育て支援では、児童会館とのタイアップで週一度のポムポムタイム、地域内の各小・中・高校とそのPTAとの緊密な連絡による子どもたちの事故防止、ボランティア活動の推進、子ども中心の行事の展開、ここでは青少年育成委員の方々が不可欠です。青少年音楽のひろばなどユニークです。



青少年音楽のひろば（2006年12月10日、北野平小学校にて）

また心身に障がいを持つ人たちに對する思いやりの動きも忘れてはけません。相談員による定例相談室の開催、大きな行事への参加支援が中心です。このような活動を支えてくれる民生委員・児童委員育成協議会、日赤奉仕団、保護司会、更生保護女性会、各諸団体と町連の密接な連携がこれまた不可欠です。

（二）住んで楽しいきれいなまちづくり。地域の行事の展開にもふれます。まず特筆すべきは、夏の「北野ふれあい夏まつり」です。十七町内会あげてのお祭りで、昼の諸行事、夜は打ち上げ花火と地域の方々の応援をいただき、延べ三万人の人たちに楽しんでも

らっています。春のヤマベの放流、延べ四キロメートルにわたる厚別、吉田の両川岸の草刈り清掃はボランティア延べ千五百人が参加し圧巻です。河原を使つてのウォーキング、区の無料提供のパークゴルフ場は、連日の押すな押すなの大盛況、遠く区外の人にも知れ渡る名所です。お気づきのよう厚別川河川敷を使つての行事が夏場を中心に行われています。自分たちの川を自分たちできれいに保ち、川とともに楽しむ「川との共生」と私なりに呼んでいます。もちろん、これら福祉も行事も古いものは豊平区時代から始まり、それぞれの歴史を持つて営々先達の方々によつて育てられたものが十年、二十年の時を経て今日があります。大切な財産をさらに立派なものにして後に引き継ぐことが我々の使命と身を引き締めています。

十年後の誕生二十周年にはさらに磨きのかかった「夢とロマンのある住みよい北野」になつて信じて筆をおきます。

広告